

友好都市 江戸川区・鶴岡市 学童疎開80周年記念事業



令和6年6月13日(木) 江戸川区立鹿本小学校にて実施

令和6年度も様々なイベントが開催されました!

【4月】
江戸川・鶴岡友好交流演奏会



【5~10月】
庄内米づくり事業



▲田植え(5月)

▼J A 鶴岡青年部による
米づくり特別授業(6月)



▲稲刈り(10月)

【10月】
江戸川区民まつり



小松川平井
ふるさとまつり

【2月】
鶴岡寒鰯まつり



【4~3月】
鶴岡の観光PR
と物産展

令和7年度 東京事務所イベントカレンダー

開催日(予定)	イベント名	場 所
4月17日(木)~18日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	都営新宿線船堀駅北口広場
4月22日(火)~24日(木)	グリーンパレス物産市	グリーンパレス
6月26日(木)~27日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	東西線西葛西駅南口広場
7月17日(木)~18日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	東西線西葛西駅南口広場
8月7日(木)~8日(金)	だだちゃ豆とメロンの直売会	東西線西葛西駅南口広場
9月18日(木)~19日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	都営新宿線船堀駅北口広場
9月24日(水)~26日(金)	グリーンパレス物産市	グリーンパレス
10月23日(木)~24日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	東西線西葛西駅南口広場
11月20日(木)~21日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	都営新宿線船堀駅北口広場
12月4日(木)~5日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	東西線西葛西駅南口広場
12月16日(火)~18(木)	グリーンパレス物産市	グリーンパレス
2月15日(日)	鶴岡寒鰯まつり	船堀駅TOKIビル前広場
2月19日(木)~20日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	都営新宿線船堀駅北口広場
3月5日(木)~6日(金)	鶴岡の観光PRと物産展	東西線西葛西駅南口広場

そのほか、江戸川区内の地域まつり等にも参加しております。
開催予定は変更となる場合があります。最新情報は鶴岡市HPや
東京事務所Facebook、X(旧Twitter)をご覧ください。



鶴岡市HP



Facebook



X(旧Twitter)



▲司会の石川牧子さん(元日本テレビアナウンサー)



▲鶴岡ふるさと観光大使の皆さん



▲化け物による地酒のふるまい



▲地酒、焼酎(鹿児島市提供)、ワインコーナー

日時:令和7年2月8日(土) 15時40分~18時

場所:タワーホール船堀

構成:第1部 市政報告

第2部 地酒とワインを楽しむ会

第5回鶴岡市市政報告会



▲皆川治 鶴岡市長



第2部では、「地酒とワインを楽しむ会」として鶴岡自慢の地酒やワインをはじめ、郷土料理の「寒鰯汁」や在来作物の「焼畑あづみかぶ」の漬物のふるまいによって鶴岡の食文化を堪能していただきました。

また、鶴岡市をフィールドに調査研究活動を行っている大東文化大学、昭和女子大学の学生の皆さんによる発表の後、ふるさと会の皆さんによるアトラクションとして、鶴岡天神祭でお馴染みの化け物による地酒のふるまいや、地酒や漬物などの景品が当たる抽選会を行いました。

他にも今年度新たに鶴岡ふるさと観光大使に就任された演歌歌手の小野寺陽介さん、お笑いコンビ・スパイクの松浦志穂さんが壇上に上がり自己紹介を行うなど、大いに盛り上がりしました。



▲昭和女子大学、まやのやかた越沢三角そば生産組合の皆さん



▲抽選会の様子

▲疎開経験者、友好団体、鹿児島市の皆さん



▲研究発表(大東文化大学)

▲販売ブース

両区市の交流の歴史を次世代に引き継ぐ

江戸川区と鶴岡市の友好都市盟約の契機となった学童疎開から令和6年度で80周年を迎えました。次世代に交流の歴史を引き継いでいくことを目的として、令和6年6月13日(木)、鶴岡市立朝陽第三小学校と姉妹校盟約を結ぶ江戸川区立鹿本小学校を会場に学童疎開80周年記念事業を開催しました。

語り部として江戸川区内在住の疎開経験者である荒木 宋弘(あらき そうこう)さん、皆川治(みなかわ おさむ)鶴岡市長などが鹿本小学校を訪れ、当時の体験談や平和について全校児童186名と交流しました。



▼疎開経験者 荒木宋弘さん(左)、皆川治 鶴岡市長(右)

荒木さんの当時の体験談

昭和19年の夏、当時国民学校4年生だった荒木さんは、空襲が激しくなったことから東京に残る家族と別れ、上野駅から鶴岡市へ夜行列車で向かう際、「東京を離れるときがとても悲しかった。」と振り返りました。鶴岡市では、湯野浜温泉旅館の「龍の湯」で教職員8人を含む123人と約1年3か月の疎開生活を送る中で「食料面では苦労しなかった。」とした一方で、「山形にも空襲がきて必死で逃げた。」などと語られました。

児童から荒木さんへの質問

「二番印象に残っていることは？」

荒木さんは、「旧盆の頃、旅館のトイレで父に遭遇したことを先生に伝え、再びトイレに戻った時に父の姿はなかった。その後、面会に来た祖父が湯野浜を訪れた際に、父が3月に東京大空襲で熱さから逃れるため川に飛び込み溺死したことを知らされ、釣りや潮干狩りに連れて行ってくれた父との思い出が甦った。」「終戦後に東京へ戻った際に自宅が焼失していた。」などと当時の体験を語られました。続けて「戦時中の体験を子どもたちに伝えていくことが大事だと思う。」と想いを伝えられていました。

友好都市 江戸川区・鶴岡市

学童疎開80周年

体験を聞いた5年生の児童は、「疎開によって家族と離れたり、父親が亡くなったことを聞いても諦めずに生きてこられたことがすごい。将来、子どもに語り継ぎたい。」などと感想を述べました。

皆川市長から児童へ

皆川市長は、「80年の記憶を風化させず、学童疎開のことをつないでくれる江戸川区の試みに感謝したい。」とした上で、「両校の長い交流が学童疎開の記憶を風化させずにいた。その重要な役割を、今は皆さんが担っておられることに感動しました。若い世代の皆さんが交流を引き継ぎ、疎開の記憶を伝えていってほしい。」と話しました。



▲授業見学の様子



▲3・4年生が花笠踊りで歓迎

学童疎開について

第二次世界大戦中、戦況の悪化による食料不足や本土空襲の恐れが大きくなったことにより、都市部の児童を戦火から守り、教育を続けるために地方へ集団疎開させた。江戸川区では、昭和19年8月から翌年11月にかけて、区内の小学生3年生から6年生4,388人が鶴岡市内の寺や旅館、民家などに疎開した。このことを契機として江戸川区と鶴岡市は、疎開経験者を中心に市民同士で親交を深め、昭和56年5月に友好都市盟約を締結した。